

校長通信 (1月号)

January / 8th / 2026 / VOL 041

3 学期始業式 校長式辞「情報で溢れるこの時代に必要なこと」

新年に入り、世界中に衝撃を与える出来事があり、連日のようにニュースで報じられています。こうした出来事がメディアを通して報じられる際、多くの場合、「これは正しいのか」「これは間違っているのか」という、分かりやすい構図で語られます。もちろん、武力や暴力が正当化されてよいはずはありません。世界で唯一の被爆国である日本に生きる私たちが、平和を大切にする立場をとることは、大前提です。しかし同時に、私はこうも思います。その出来事を、当事者はどう感じているのだろうか。その声は、私たちのもとに本当に届いているのだろうか、と。

実は私が海外で学んでいた頃、ある国から来た友人がいました。彼女は、クラスで自国の現状について発表をしたことがあります。その内容を、私は今でも忘れることができません。政治家による汚職、深刻な経済不況、麻薬などの違法薬物の蔓延、治安の悪化。日本で暮らしている私たちには、なかなか想像することのできない状況を、彼女は涙を流しながら語っていました。自分がとても無知であることを自覚すると同時に、世界で起きていることに対して、何も理解できていない自分がとても恥ずかしく感じました。テレビやインターネットでいくらでも情報を入手できる時代に、自分が得ている情報はとても限定的だとわかった瞬間でした。

その話を聞いたとき、私は強く感じました。同じ国際ニュースでも、どこから見るかによって、見え方はまったく変わるということです。もし、その国で苦しい生活を送ってきた人、あるいは国を離れざるを得なかった人の視点で考えたとき、ニュースで報じられている出来事は、また違って見えてくるかもしれません。私たちが目にするニュースや、SNSで流れてくる情報は、すべて「事実の一部」です。その裏には、必ず背景があり、文脈があり、語られていない側面があります。しかも現代は、SNSやAIによって、自分の興味や好みに合った情報ばかりが、無意識のうちに選ばれて表示される時代です。たくさんの情報に触れていると、知識が増えたような気になり、いつの間にか自分が賢くなったような感覚になります。けれど実は、「自分で考えているつもりが、実はAIやSNSに考えさせられている」そんな状態になってしまっていることもあります。自分で選択し、自分で決めていると思い込んでいたことが、実はそうではなかった。こんなに恐ろしいことはありません。

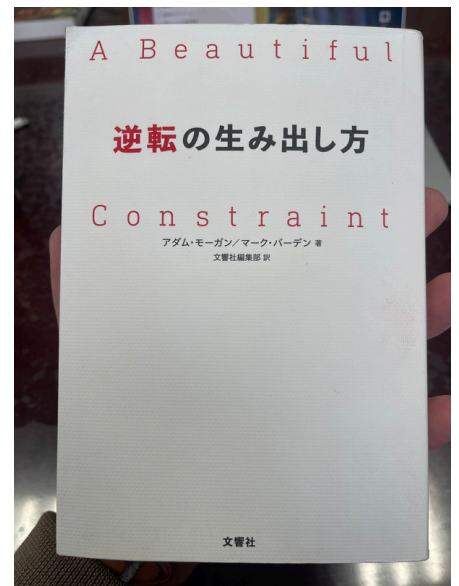
だからこそ、私たちは立ち止まって考える必要があります。「それは本当だろうか」「誰の立場から語られているのだろうか」「反対の視点で考えると、どう見えるのだろうか」。これが、批判的思考力です。皆さんが日々学んでいる教科、読書、対話、探究活動を通してこの力は少しずつ養われていきます。だから私たちはいろんな科目を学ぶのです。だから私たちは読書をするのです。いろんな知識を身につけ、さまざまな視点で物事を見る力を養い、柔軟な考え方が必要なのです。判断するのは自分です。決めるのも自分です。誰かの正解を借りて生きるのではなく、自分の頭で考え、自分の足で立つために、私たちは学び続けます。

新しい一年、多くの出来事と向き合うことになるでしょう。その一つひとつを、ぜひ自分なりに考え、自分の言葉で受け止めてください。学び続けることを大切に、そして、素敵に大人へと成長していく一年にしていきたいと思います。まずはこの3学期、1、2年生は次年度に向けた準備期間として、自分の卒業後になりたい姿について考えてもらいたいと思います。自分としっかりと向き合い、自分を理解し、将来を具体的に描いていきたいと思います。そして、3年生、ここから一般受験を控える生徒もすでに進路決定している生徒も、学校生活は残りわずかです。高校生活での伸び代はまだ残されています。後輩たちが憧れるかっこいい先輩の姿として、さらに自分を磨き上げてもらいたいと思います。3学期も皆さんにとってかけがえのない大切な時間となることを心から祈っています。2026年、「Go Beyond 想像以上の自分になる」一年にしていきたいと思います。

「逆転の生み出し方」アダム・モーガン/マーク・ハーティン著

世界には星の数ほど企業があり、その中でイノベーション（革新）を起こし、社会を大きく変容させた会社がたくさんあります。一般的にそうした技術革新は、自由な雰囲気や制約のないゆとりある環境の中で起こると思われがちです。しかし、多くの企業は「制約」の中で、その逆境を打開するためにイノベーションを起こしてきているということが、この本では語られています。とても皮肉なことですが、自由に発想して、なんでもできる状態の中では、課題や問題点を見出すことができず、五里霧中になってしまうのです。逆に、制約があることにより、解決すべき問題が明確に把握することができるようになり、そこから逆転の発想や、イノベーションというものが生まれるのです。

どうしても私たちは、日常生活、日々の仕事の中で、環境への不満、窮屈さというものを感じ、他人や他校と比べ、ついつい隣の芝は青い状態になりがちです。でも、自由であるということだけでは、はっきり言って何も生まれることはありません。制約があるということは、ある意味必要なことで、その制約を逆にチャンスに変えていく姿勢へとつながっていきます。他責や言い訳で終わるか、制約をチャンスと捉えるか。御殿場西高校は後者でありたいですね。



「20歳の集い」の司会を担当

1月11日（日）御殿場市では「20歳の集い」が市民会館で開催され、放送部の4名が司会を担当しました。御殿場市長や市議会議員、中高の教育関係者、本校の卒業生たちが見守る中、立派に司会を務めてくれました。卒業生のみなさんにとっても、母校の生徒が自分たちの成人式の司会を担当してくれたことは大変誇らしいことだったと思います。放送部も今年度は学校外のイベントに数多く呼ばれるようになり、校外での出番が増えてきています。これからも自分たちの出番で輝いてもらいたいと思います。



「つながるフェスタ2026」開催決定

探究ゼミ（2年）地域活性化プロジェクトのメンバーが北駿地区の中高生がつながるイベント「つながるフェスタ2026」を開催します。これは高校生によるパフォーマンスや合同クイズ大会などのレクリエーションを通して、これまでにはなかなか作れなかった小中高の縦や横のつながりを作っていくことを目的としています。こうした場が、地域の新たな魅力の発信に繋がり、地域が活性化していくことを期待したいですね！本校の在校生の皆さんもぜひ参加していただきたいと思います！

日時 2026年2月15日（日）
10:00～12:00
場所 本校スカイホール
参加 市内小中学生および保護者
本校生徒および保護者
内容 高校生パフォーマンス・
合同レクリエーション
お弁当販売 / Pizza販売



保護者の皆様へ

保護者の皆様、旧年中は本校の教育活動に多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。2026年も生徒の皆さんにとって素晴らしい学び、体験、出会いにあふれ、大いなる飛躍の年となるよう、教職員一同、全力で臨みたいと思います。

1月は3年生にとっては大一番の共通テストが待っています。積み重ねてきたものを存分に発揮してもらいたいと思います。2年生は高校生活の中でも大きなイベントである修学旅行が待っています。体調管理に気を付け、学びにあふれた研修となることを願っています。

〈1月の行事予定〉

- 1月8日（木）令和7年度3学期始業式
- 1月17日（土）18日（日）大学入学共通テスト
- 1月18日（日）～23日（金）2年生修学旅行（国内/マレーシア/韓国）

2026

JANUARY

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31